

住民アンケート・ヒアリング調査結果 (葛飾区東新小岩七丁目町会)

平成29年6月22日

洪水・高潮氾濫からの大規模・広域避難検討WG

住民アンケート・ヒアリング調査 ～概要①～

(1) 概要

- ・移動困難者の域外避難時の課題について、アンケート調査を実施した後、その調査結果を踏まえ、移動困難者がいる世帯を中心に対面により情報提供及びヒアリング調査を実施することにより、在宅の移動困難者の避難意向や実態を把握し、移動困難者の避難方針について整理する

（2）实施主体

・東新小岩七丁目町会、葛飾区 地域振興部 防災課、東京大学 生産技術研究所 加藤研究室、ア!安全・快適街づくり、内閣府（防災担当）、国土交通省 荒川下流河川事務所、気象庁東京管区気象台、東京都

(3) 調査対象・実施方法・調査内容

・平成28年12月に東新小岩七丁目町会へ加入する世帯を対象にアンケートを実施し、その結果、避難の際、家族や周囲の支援が必要な世帯を中心とし、訪問（一部電話）により情報提供及びヒアリング調査を実施

(4) アンケート実施期間及び回収数

・平成28年12月5日（月）～12月19日（月）
・配布数：977世帯 回収数：621世帯 有効回答数：550世帯（56.3%）※避妊先が無回答だった世帯を除く

※白票を除く票数

(5) ヒアリング調査実施期間及びヒアリング数

・平成29年4月10日（月）～5月28日（日）

・ヒアリング実施世帯数 : 64世帯

うち **A** 移動困難者がおり支援があっても5区外に避難不可（認定等あり）：14世帯

うち **B** // (認定等なし) : 14世帯

うち **C** 移動困難者がおり支援があれば5区外に避難可能 : 13世帯

うち **D** 5区外に避難可能だが域内避難意向（健常者のみの世帯）・・・23世帯

※認定等あり：要介護・要支援認定、手帳等所有者のいる世帯

アンケート結果

以下は、平成28年12月に東新小岩七丁目町会へ加入する世帯を対象にアンケートを実施した結果である。

			5区外に避難	5区内に留まる	ヒアリングの有無
合計(550世帯)			392世帯 (71%)	158世帯 (29%)	
	支援があっても5区外に避難不可(53世帯)	認定等あり		35世帯	ヒアリング対象(A)
		認定等なし		18世帯	ヒアリング対象(B)
	支援があれば5区外に避難可能(66世帯)		46世帯	17世帯	ヒアリング対象(C)
	5区外に避難可能だが留まる(88世帯)			88世帯	ヒアリング対象(D)
	5区外へ避難する(346世帯)		346世帯		ヒアリング対象としない

ヒアリング調査

A 支援があっても5区外に避難不可（認定等あり）
35世帯のうち、14世帯に対してヒアリングを実施
➤ 認定等を受けている人の状況とともに、5区外に避難できない理由、5区外避難の可能性を把握

B 支援があっても5区外に避難不可（認定等なし）
18世帯のうち、14世帯に対してヒアリングを実施
➤ 認定等を受けていない人はどのような方が、また、5区外避難の可能性を把握

C 支援があれば5区外に避難可能
63世帯のうち、13世帯に対してヒアリングを実施
➤ 認定等を受けている場合、5区外へ避難する際の条件等を把握

D 5区外に避難可能だが域内避難（健常者のみ）
88世帯のうち、23世帯に対してヒアリングを実施
➤ 5区内に留まる理由、5区外へ避難する際の条件等を把握

※ヒアリングのサンプルに偏りがある可能性があることに留意

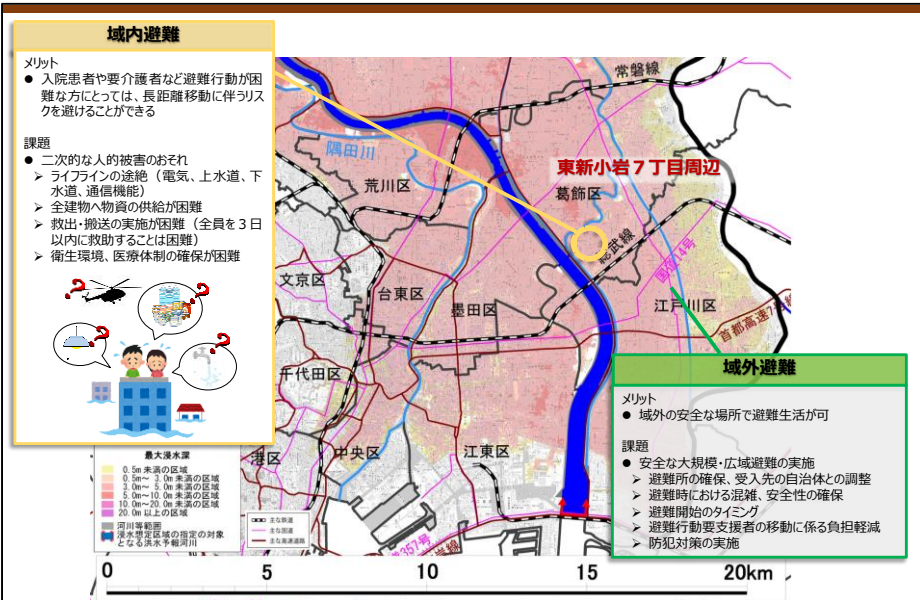
住民アンケート・ヒアリング調査 ～概要②～

アンケート時には、大規模水害のリスクが正しく認識できていない住民が多かった

【ヒアリング時に聞いた、アンケート時の大規模水害に対する認識の例】

- ✓ 大規模水害といっても、浸水深は膝位までであり、自宅の2階にいれば大丈夫だと思っていた。
- ✓ 自宅が3階建てなので、2階まで水がきたとしても3階に避難すれば大丈夫だと考えていた。
- ✓ 3日程度で水が引くと認識していた。浸水継続時間が2週間以上とは想定していなかった。
- ✓ 広域避難という概念を認識していなかった。5区外に避難が求められることは想定外であった。
- ✓ ライフラインは3日程度で復旧すると考えていた。また、トイレが使用できなくなるとは思っていなかった。
- ✓ 孤立しても3日程度で救助してもらえると考えていた。

上記のように、アンケート時には、大規模水害のリスクが正しく認識できていない住民が多かったことから、以下のような資料を用いて、域外避難・域内避難それぞれのメリット・デメリットを説明した上でヒアリングを行った。



ヒアリング時に用いた資料の例

住民アンケート・ヒアリング調査 ～ヒアリング前後の避難先の変化～

【ヒアリング結果】

- 移動困難者がいる41世帯のうち、ヒアリング前は33世帯が5区内に留まると回答したのに対し、ヒアリング後には40世帯が江東5区外へ避難すると回答した。身体的な理由で5区外に避難できないのは1世帯のみであった。
- 変更した主な理由としては、アンケート時には域内避難を行うことによる二次的な人的被害のリスクの認識が十分でなかったことが挙げられた。

【結果を踏まえた基本的な考え方】

- 在宅の移動困難者について、身体的な理由で5区外に避難できないのは1世帯のみであったが、ヒアリング対象に偏りがある可能性もあることも考慮し、域外避難と域内避難どちらの避難行動をとっても対応できるような計画とし、浸水区域内の公的な避難所については優先的に配分する。
- 大規模水害時のリスクを正しく認識することにより、住民の避難行動は変わりうるものであり、そのための周知活動・普及啓発に努める。

避難先	世帯区分	A: 支援があっても5区外に避難不可【認定等あり】 (14世帯)	B: 支援があっても5区外に避難不可【認定等なし】 (14世帯)	C: 支援があれば5区外に避難可能 (13世帯)	世帯数 合計
5区内	自宅	5	6	1	33
	公共施設	8	8	4	
	その他	1			
5区外	自主避難先			6	8
	公共施設			2	

【アンケート時から5区外に避難すると回答した8世帯】

- 家族の支援を受けられることから5区外へ避難可能と回答
- 8世帯中7世帯で、大規模水害時に広域避難が求められることを知っている等、リスク認識を持っていた

【避難先を変更した理由】

- アンケート時には、域内避難を行うことによる二次的な人的被害のリスクの認識が十分でなかった
⇒55世帯中52世帯
(具体例)
➢ ヒアリング前には、浸水しはじめてから逃げると思い込んでおり、支援があっても5区外への避難は不可能だと考えていたが、早い段階で避難開始するということであれば5区外に避難することは可能
- リスクを正しく認識したことで、支援を受けられるか否かを改めて考え直した結果、別宅の親族の支援が受けられると判断

- アンケート時には、自宅で域内避難を行うことによる周囲への影響が十分に認識できていなかった
⇒55世帯中3世帯
(具体例)

- ヒアリング前には、立退き避難を行うと周囲に迷惑をかけると誤解をしていたため自宅に留まるとしたが、そのことが救助活動を困難にすることを認識し、5区外へ避難すると判断

避難先	世帯区分	A: 支援があっても5区外に避難不可【認定等あり】 (14世帯)	B: 支援があっても5区外に避難不可【認定等なし】 (14世帯)	C: 支援があれば5区外に避難可能 (13世帯)	世帯数 合計
5区内	自宅				1
	公共施設				
	その他	1 ➢ 身体障害者手帳1級の子供がいるため5区内の近くの病院に避難。環境変化による体調悪化、発作が心配され、1時間以上自動車等で避難することが困難			
5区外	自主避難先	9	10	12	40
	公共施設	4	4	1	

⇒40世帯中31世帯(78%)が自主避難先に避難すると回答

※移動困難者がいない23世帯(D: 5区外に避難可能だが域内避難)についても同様の結果となった

⇒ヒアリング後は全世帯が5区外に避難すると回答

⇒23世帯中21世帯(91%)が自主避難先に避難すると回答

住民アンケート・ヒアリング調査 ～域外避難する際の移動手段（ヒアリング後）～

【ヒアリング結果】

- 移動困難者がいる世帯は、移動手段として自家用車を使用する割合が高いのに対し、移動困難者がいない世帯については1世帯を除く全世帯が鉄道を選択した。
- 自動車を保有しているに関わらず鉄道で逃げると回答した方もいたが、その理由として、東日本大震災時の道路の混雑状況を理由として挙げた人がいた。

【結果を踏まえた基本的な考え方】

- 「時間最短」で避難した場合の自動車の利用割合は1割程度であり（第3回WG「資料3」参照）、自動車での避難は大混雑を招くおそれが高いため、第3回WGでは、移動困難者を含む世帯が自動車を使用できるようにする方針を提示した。
- 上記及び本ヒアリング結果を踏まえ、自動車の利用は移動困難者のいる世帯に限定し、それ以外の世帯については徒歩や鉄道等により避難することの実現可能性は十分にあると考えられる。
- 自動車の混雑の状況等、大規模・広域避難時に想定される状況を正しく認識してもらうための周知活動・普及啓発に努める。

【移動困難者がいる世帯】

世帯区分 移動手段	A: 支援があっても5区外に避難不可【認定等あり】 (14世帯中、5区内に留まると回答した1世帯を除く13世帯)	B: 支援があっても5区外に避難不可【認定等なし】 (14世帯)	C: 支援があれば5区外に避難可能 (13世帯)	合計世帯数
自動車	10(8)	8(6)	7(4)	25(18)
区が移動手段確保 (バス・福祉車両等)	1(1)			1(1)
鉄道	2(2)	6(3)	6(2)	14(7)

自家用車を保有していない世帯は親戚等の送迎等で避難

【移動困難者がいない世帯】

世帯区分 移動手段	D: 5区外に避難可能だが、域内避難 (23世帯)
自動車	1(1) (※ペットがいる世帯)
区が移動手段確保 (バス・福祉車両等)	
鉄道	22(9)

※()内は自家用車を保有している世帯

- 江東5区全体において、交通手段・経路を最適化した場合、立退き避難の対象者全員の避難が完了する時間は約3時間であり、その際の自動車の利用割合は13%
- ヒアリング結果を踏まえると、全体に対する自動車を使う移動困難者の割合は13%※と推計できる。地区により最適な自動車の利用率はばらつきがあることに留意する必要があるものの、移動困難者を含む世帯が自動車を使用できるようにするため、他の住民については可能な限り徒歩や鉄道避難とするよう、協力を要請することが必要

※ 25世帯×(116世帯÷41世帯)÷550世帯×100%

（結果詳細）ヒアリング時に挙がった要望、避難を勧める情報の発表について

ヒアリング時に挙がった広域避難に関する要望など

■ 家族で5区外に避難するための条件

- ・ 社会的に事業所、店舗、学校等が一斉休業・休校となること
- ・ 商店街の休業に対する近隣住民の理解（⇒自営業主も避難可）

■ 服用している薬などの心配について

- ・ 服用している薬については1箇月に1回など、通院時にしか処方されない（薬のストックがない）。避難が遅れ、自宅に留まらざるを得ない場合や、学校・公民館などの公共施設に避難せざるを得ない場合は不安（ヒアリング結果では、病院によっては災害対策用に薬をストックしておきたい等の患者の要望を踏まえ、薬を余分に処方している場合もあり）
- ・ 肺気腫で酸素ボンベが必要な方（現在病院に入院中）が退院後、自宅で電気が不通になると、約18時間分の酸素しかストックしていない状況。かかりつけの医師からの助言が必要

■ 福祉施設などの大規模水害対策について

- ・ 介護付きマンション、介護老人福祉施設に入所している家族を残し、江東5区外に避難しても良いかが不安
- ・ 施設等の大規模水害時の対応について把握することが必要

■ 広域避難について

- ・ 自宅に留まろうとする方へ家族以外の第3者から広域避難の重要性の周知
- ・ 避難情報とともに、避難するエリア、避難先までのルートや交通手段も教えてほしい
- ・ 葛飾区が5区外のホテルと協定を締結し、避難先としてホテルを斡旋
- ・ 広域避難先や避難場所の施設状況を格付けし、要配慮者の状況により、優先順位をつけながら避難誘導してほしい

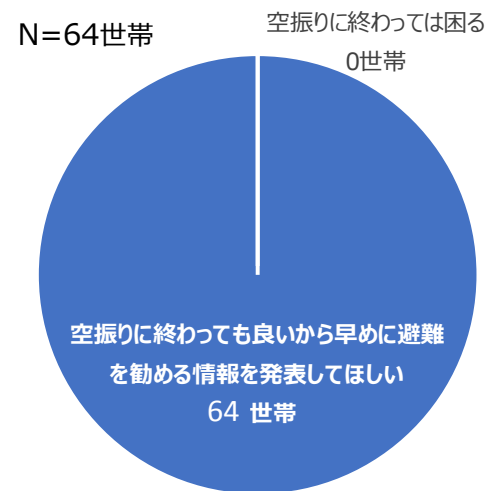
■ 自主避難先の確保にあたっての工夫について

- ・ マンスリーマンションを確保する（ホテル等の宿泊施設よりは格安で滞在が可能）
- ・ 親戚宅に一定期間、滞在することも困難なため、複数の親戚宅、ホテル等の民間施設を転々とする
- ・ 何日間位、避難する必要があるのかわかれば、遠方の親戚宅や国外に行く（外国人）

■ その他

- ・ ポンプの排水能力の向上
- ・ 防災上の役割の一時的免除（学校や保育園の教職員・市民消防隊・町会役員等） 5区内に留まらざるを得ない場合は家族の避難方法の検討

「江東5区外」への避難を勧める情報の発表について



(結果詳細) 要介護・要支援、各種の手帳の認定状況と避難先・交通手段の関係 (22世帯)

※22世帯 : A(支援があっても5区外に避難不可(認定あり))の14世帯に、C(支援があれば5区外に避難可能)の世帯のうち、認定をとっている8世帯を加えた世帯

要配慮者の状況				避難先 (世帯) 江東5区内		避難先 (世帯) 江東5区外				交通手段 (世帯)				
要介護・要支援認定	身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者手帳	自宅に留まる	学校・公民館などの 公共施設 その他	広域避難先として行政から指定 された江東5区外の施設	友人・知人宅等	親戚、 関連施設	通勤・通学先など 民間施設 (ホテル等)	自家用車	送迎車 親戚等 (区内) の	送迎車 親戚等 (区外) の	タクシー (バス・福祉車両等)	鉄道
介4							1			1				
介4							1			1				
介3 介1	級不明						1					1		
介3		愛2				1				1				
介3							1			1				
介2 支2							1			1				
介2							1			1				
介2							1			1				
介1							1			1				
支2 支1						1							1	
支2							1			1				
支1	級不明	度数不明				1								1
	身1	愛1			1									
	身1					1								1
	身1					1				1				
	身2						1				1			
	身4						1							1
	身4						1							1
	身5	愛2 愛2							1	1				
		愛2					1			1				
			精2				1							1
			精3				1			1				

自家用車を保有していない。移動支援も困難

80代の父が要介護3、
30代の息子が愛の手
帳2度所持しており、鉄
道での移動は困難

移動支援が困難

子ども2人が愛の手
帳2度を所持しており、
鉄道での移動は困難

→ 同一世帯で認定等がある人が2人いる

→ 同一世帯で認定等がある人が2人いる

→ 同一世帯で認定等がある人が2人いる

→ 同一世帯で認定等がある人が2人いる

→ 同一世帯で認定等がある人が2人いる

※避難先はヒアリング後

(結果詳細) 要介護・要支援の認定状況と避難先・交通手段の関係 (12世帯)

※12世帯のうち、3世帯は要介護・要支援者が2人いる

	避難先 (世帯) 江東5区内			避難先 (世帯) 江東5区外			交通手段 (世帯)					
	自宅に留まる	学校・公民館などの 公共施設	その他	広域避難先として行政から指定 された江東5区外の施設	親戚、友人・知人宅等	通勤・通学先	民間施設 (ホテル等)	自家用車	親戚等 (区内) の送迎車	親戚等 (区外) の送迎車	タクシー	鉄道 (バス・福祉車両等)
要介護5 (0世帯)												
要介護4 (2世帯)					2			2				
要介護3 (3世帯)				1	2			2			1	
要介護2 (3世帯)					3			3				
要介護1 (2世帯)					2			1			1	
要支援2 (3世帯)				1	2			2				1
要支援1 (2世帯)				2								1
(参考) 足が不自由だが要介護 ・要支援認定なし (6世帯)				1	5			2	1	1		2

要支援1以外の世帯は車での避難を選択

足が不自由であるが重度ではなく、江東5区外への避難が可能
 ✓ 高齢のため：3人
 ✓ ひざが悪い：2人
 ✓ 怪我で右膝を手術：1人
 ✓ 幼少期から股関節に障害がある：1人

1世帯に
2人

1世帯に
2人

※避難先はヒアリング後

（結果詳細）身体障害者手帳の保有状況と避難先・交通手段の関係（9世帯）

	避難先（世帯） 江東5区内			避難先（世帯） 江東5区外				交通手段（世帯）					
	自宅に留まる	学校・公民館などの 公共施設	その他	広域避難先として行政から指定 された江東5区外の施設	親戚、友人・知人宅等	通勤・通学先	民間施設（ホテル等）	自家用車	親戚等（区内） の送迎車	親戚等（区外） の送迎車	タクシー	鉄道	区が移動手段確保 （バス・福祉車両等）
身体障害1（3世帯）			1	2				1				1	
身体障害2（1世帯）					1					1			
身体障害3（0世帯）													
身体障害4（2世帯）					2							2	
身体障害5（1世帯）							1	1					
身体障害6（0世帯）													
身体障害7（0世帯）													
身体障害（級不明）（2世帯）				1	1						1	1	

身体障害者手帳1級の子供がいるため5区内の近くの病院に避難。環境変化による体調悪化、発作が心配され、1時間以上自動車等で避難することが困難

ペースメーカーの方は鉄道で5区外に避難

歩行困難なため、親戚等（区外）の送迎車で5区外へ避難

※避難先はヒアリング後

(結果詳細) 愛の手帳の保有状況と避難先・交通手段の関係 (5世帯)

※5世帯のうち、1世帯は愛の手帳の保有者が2人いる

	避難先（世帯） 江東5区内			避難先（世帯） 江東5区外				交通手段（世帯）					
	自宅に留まる	学校・公民館などの 公共施設	その他	広域避難先として行政から指定 された江東5区外の施設	親戚、友人・知人宅等	通勤・通学先	民間施設（ホテル等）	自家用車	親戚等（区内） の送迎車	親戚等（区外） の送迎車	タクシー	鉄道	区が移動手段確保 （バス・福祉車両等）
愛の手帳1（1世帯）			1										
愛の手帳2（3世帯）				1	1		1	3					
愛の手帳3（0世帯）													
愛の手帳4（0世帯）													
愛の手帳保有（度数不明） （1世帯）				1								1	

身体障害者手帳
1級も保有

1世帯に愛の手帳の
保有者が2人

要支援1、身体障害者手帳 (級不明) も保有

※避難先はヒアリング後

（結果詳細）精神障害者手帳の保有状況と避難先・交通手段の関係（2世帯）

	避難先（世帯） 江東5区内			避難先（世帯） 江東5区外			交通手段（世帯）						
	自宅に留まる	学校・公民館などの 公共施設	その他	広域避難先として行政から指定 された江東5区外の施設	親戚、友人・知人宅等	通勤・通学先	民間施設（ホテル等）	自家用車	親戚等（区内） の送迎車	親戚等（区外） の送迎車	タクシー	鉄道	区が移動手段確保 （バス・福祉車両等）
精神障害1（0世帯）													
精神障害2（1世帯）					1							1	統合 歩行
精神障害3（1世帯）					1			1					

統合失調症だが、
歩行・鉄道での避難可

癲癇かつ歩行困難。自家用車で避難